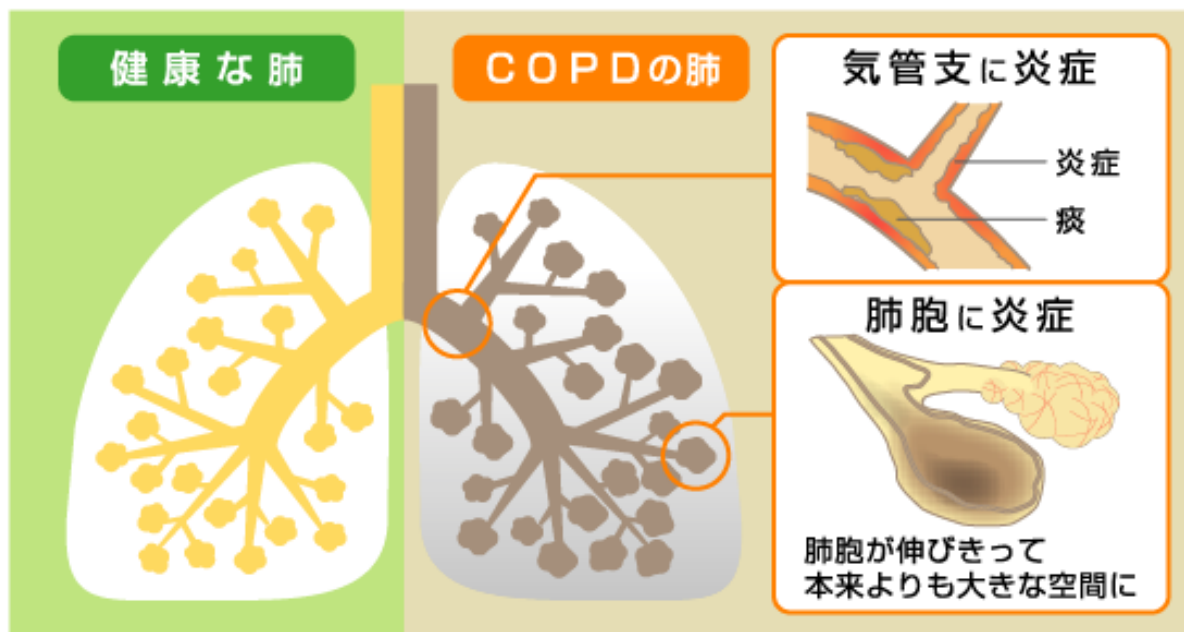


# タバコの正体

タバコを吸うと、肺に有毒な煙が直接送り込まれます。そのため長年タバコを吸い続けた喫煙者の肺は相当ダメージを受けるので肺がんになる確率が高いのですが、それだけではありません。慢性閉塞性肺疾患(COPD)という病気にもかかります。下図にあるように、気管支や肺胞に炎症が起きる病気です。



「InCROM」HPから



「QUPIO」HPから

この病気になると、せきやたんが増えて運動したときに息切れをするようになります。このような自覚症状が出始めると、COPDが中等症まで進行しているそうです。そして、さらに進行すると呼吸困難や日常生活が困難にまでなるそうですが、発病の最大の原因は喫煙なのです。

こんな病気の事を知らずに吸い始めてしまうと、息苦しさをを感じるようになってからもタバコのせいでCOPDになっている事に気付いていない人は大勢いるのだそうです。皆さんは吸い始めないでしょうが、身近にそんな症状の人がいれば診察してもらおう声をかけてみてください。